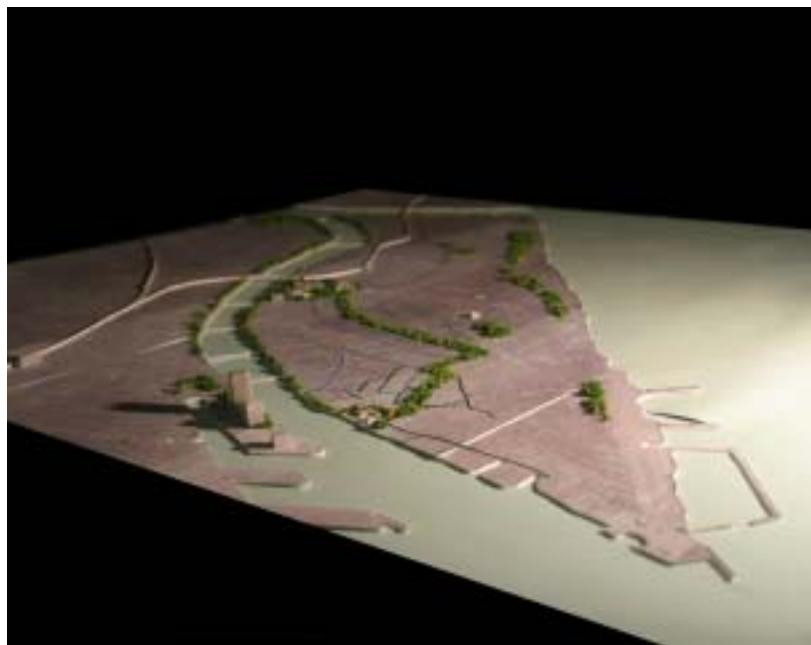




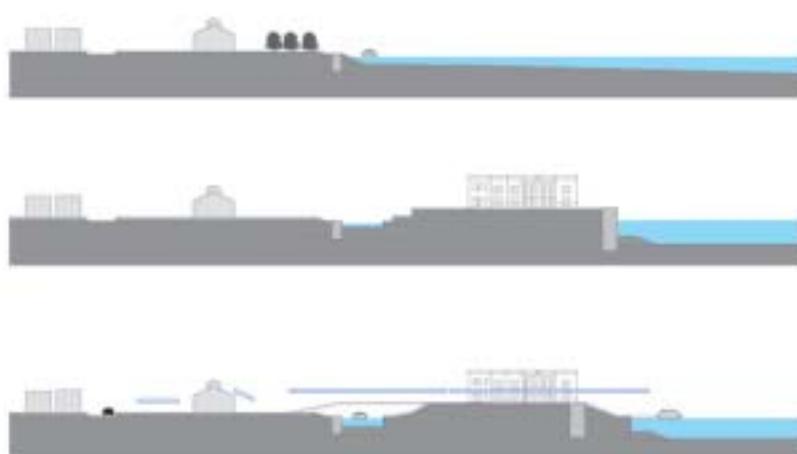
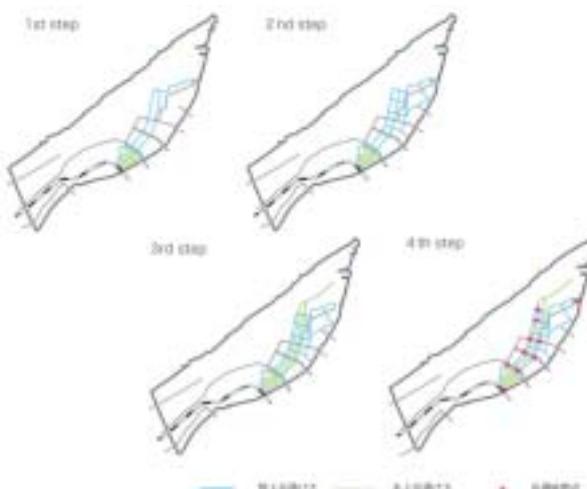
新潟・キャナルシティー

今井 尚之 (いまい たかゆき)

日本大学 理工学部 社会交通工学科



日本海側の重要な水運拠点とされる新潟は、海・川に囲まれさらに格子状の堀により都市が形成されて水運ネットワークがかつて存在していた。その後のモータリゼーションの台頭により堀は埋め立てられ、さらに信濃川治水の護岸整備により都市と水の関係は絶たれた。新潟市はこの掘割がつくられた地域を「湊まち」をキーワードに観光都市として再開発を進めている。そこで、交通の連続性の確保をテーマとして、新たな水運基幹交通を提案し既存の陸上交通と融合した多元的交通ネットワーク都市を提案したい。具体的には歴史的遺産・旧新潟税関庁舎を冬期対応型の新たな交通インフラを集積した交通拠点として提案をする。



講評 かつて新潟市古町に存在した水路は優れた都市景観を誇っていたらしいが、今は昔である。信濃川沿いに整備された新しい文化エリアもまた水域との縁が薄いまま完成とされている。この新スポットを選び、保存公開されている旧税関庁舎の前に埋立以前の水際線があったことを顕在化させ、舟運ルートの復活拠点とする提案を行なっている。大きな楕円リング（ペデストリアンデッキ）は埋立護岸と内陸部とのレベル差の意味を、市民に問いかける仕掛けもある。このようにビジュアルに示されて初めて地元の識者が気づくことも多く、地方を良くする建築家の役割を自覚するきっかけとして欲しい。次の課題として、自動車道に取って代わられた街なか水運ルート復活への具体的提案を期待したい。その土地に詳しく愛着を持った建築家だからこそ描ける案の実現が理想である。

(審査員：柳瀬寛夫)